



ZOWAオリジナルプロジェクト「君が私をダメにする」公開台本

▼使用に関する注意事項

「君が私をダメにする」公式サイト(<https://fun.zowa.app/lp/kimidame/>)に公開されている利用規約を必ず「一読いただき、規約に沿って」利用ください。

第1話 「生物部マネージャー」

【登場人物】

女子生徒

男子生徒

【場面設定】

放課後の生物室に男女2人



SE チャイム

SE 教室の扉が開く音

女子生徒 「すみません」

男子生徒 「あ、もしかして入部希望の人？じゃあ、ここに座って入部届を…」

女子生徒 「マネージャーになりたいんですけど」

男子生徒 「え？」

女子生徒 「だから！マネージャーになりたいんです！私、頑張ります！」

男子生徒 「え？」

女子生徒 「よーし！何かやらましょつか！まずは部室の掃除とかですかね？

散らかってますし、片づけ開始します！」

男子生徒 「ちょちょーじゃなくてー！」「…」「生物部だよ？」

女子生徒 「知ってますよ」

男子生徒 「分かっててきたの？」

女子生徒 「はい、マネージャーになりたいので」

男子生徒 「いや、生物部にマネージャーいらなから。そんなものないから。」

聞いたことある？生物部のマネージャー」

女子生徒 「ないです」

男子生徒 「聞いたことある？生物部のマネージャーが部員と恋する漫画」

女子生徒 「ないです」

男子生徒 「でしょ？」

女子生徒 「じゃあ、完全新作オリジナルで漫画化いけますね！

斬新な設定で人気でそっ！」

男子生徒 「君、変わってるね」

女子生徒 「ありがとうございます」

男子生徒 「褒めてないから。」

申し訳ないけど、マネージャー募集してないから、帰って」

女子生徒 「そんな！私、どうしても生物部のマネージャーになりたいんです！」

男子生徒 「なにその生物部史上 最も熱いセリフ。

でも募集していないものはしてないんだよ」

女子生徒 「そこを何とかー！どうしても生物部のマネージャーになりたいんです」

男子生徒 「君、頑固だね」

女子生徒 「ありがとうございます」

男子生徒 「褒めてないから」

女子生徒 「私、生き物大好きだし、向いてると思うんです！

男子生徒 「そうなの？」

女子生徒 「このニフトリもすっごく可愛いですよねー！

私、昔からニフトリ好きなんですー！ほびびびー！」

SE ニフトリの鳴き声

男子生徒 「モノマネうまいね。確かに生き物は好きみたいだね」

男子生徒 「ニフトリのびんなんじが好きなの？」

女子生徒 「せせりです」

男子生徒 「何言ってるの？うちの大事な「ワトリ」を食おうとしてないでくれよ。」

「やっほ君、生物部に向いてないよ」

女子生徒 「だって『どんな？』ろが好き？』って聞かろう？」

男子生徒 「なんで、「」の状況で、好きな鶏肉の部位の話だっと思うんだよ

君、絶対回いてないから帰って！」

女子生徒 「そんな！でも生き物が好きっていう気持ちは本当なんです」

男子生徒 「本当に？」

女子生徒 「本当です！」

男子生徒 「うん…でも生物部のマネージャーになっても何もやる」じゃないよ。」

女子生徒 「ありますよー飼ってる生き物のお世話とか」

男子生徒 「いや、それをやるの部員だから。それをマネージャーにやらわすちゃうよ」

たら俺らやるの」て無くなっちゃうよ」

男子生徒 「っていうか、それ、やりたいなら部員になればいいじゃん」

女子生徒 「それは嫌です」

男子生徒 「何ですよ?」

女子生徒 「私はあくまで「マネージャー」というブランドが欲しいだけなんです」

男子生徒 「君はめっちゃくちゃ素直だね」

女子生徒 「ありがとうございます」

男子生徒 「褒めてないから」

女子生徒 「だから、お願いします…マネージャーに…ってお願いです」

男子生徒 「だからダメだって」

女子生徒 「私、頑張りますから!」

男子生徒 「てか。そんなにマネージャーやりたいなら野球部のマネージャーになればいいじゃん」

女子生徒 「それは…ダメなんです。どうしてもできない理由があって」

男子生徒 「え、なんか深いワケでもあるの?」

女子生徒 「はい…実は…野球部のマネージャーは…しんどいんだ」

男子生徒 「思ったより浅瀬に理由があったね」

女子生徒 「でも、生物部のマネージャーなら、楽しんで『マネージャー』っていつ
ブルンドを手に入れられるじゃないですか…！」

男子生徒 「君はめっちゃくちゃ素直な子だね」

女子生徒 「ありがとうございます」

男子生徒 「だから褒めてないって」

女子生徒 「と〜に〜か〜く〜私に生物部のマネージャーという肩書を与えてく
だよね」

男子生徒 「肩書って言うっちゃったよ」

女子生徒 「てか、別に生物部にマネージャーがいてもよくないですか？
何かダメな理由でもあるんですか？」

男子生徒 「うーん…なんというか…君がマネージャーとして入ると、
」の部がダメになりそうな気がするんだよね」

女子生徒 「どういふ事ですか?」

男子生徒 「だってウチの部員、まともに女の子と喋ったとがない奴らばっかだもん」

男子生徒 「君が入ったらみんな萎縮しちゃうよ。俺だって内心ドキドキだもん」

女子生徒 「えー!そんなことないですよー!」

男子生徒 「大体、俺たち生物部っていうのは、いろんな生き物の生態には詳しいのに一番身近な『女性』っていう生き物に一番疎いんだから」

女子生徒 「何ですかそれ」

男子生徒 「俺たちは、この世のどんな生物よりも女の子が苦手なんだから。アメンボの方が何考えてるかまだ分かるよ」

女子生徒 「先輩変わってますね」

男子生徒 「君に変わってるって言われるとなんか凄く悔しいよ」

女子生徒 「でも大丈夫ですよー私、クラスの男子みんなと仲良くなれるタイプなんでー!」

男子生徒 「それはそれで困るのよー！

君みたいな『オタクに優しいギャル』がいたらみんな君のこと好きにな
って、君の奪い合いで部が崩壊しちゃうから」

男子生徒 「とにかく今日はもう帰って」

女子生徒 「わかりました！そんなに言うなら、もういいです！

私…鉄道模型部のマネージャーになってきますー！」

男子生徒 「モノマネうまいね〜」